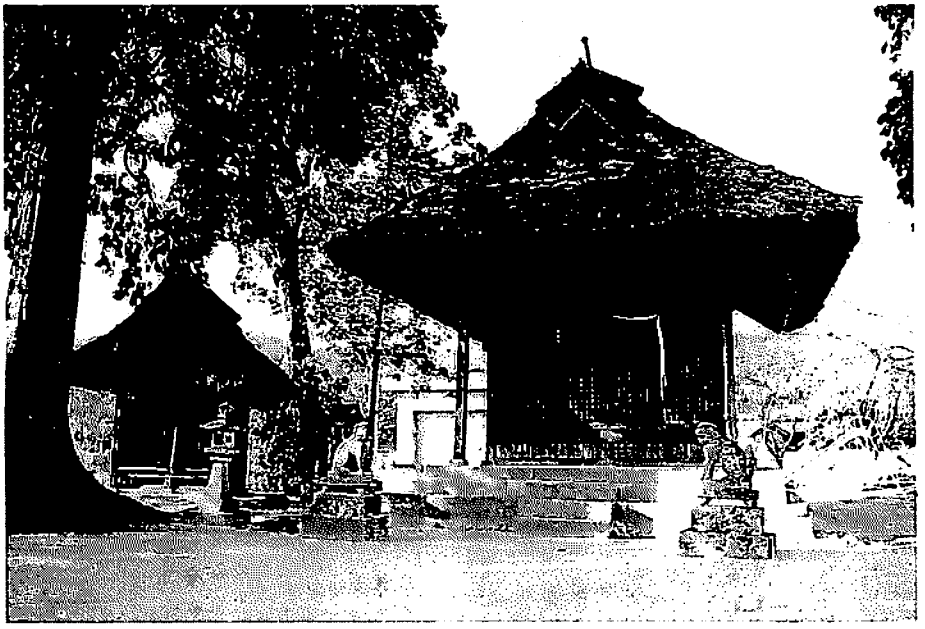
木 津 里 づ く り 計 画



平成１２年　５月

木津里づくり協議会

目　　次

Ⅰ．地区の現況と課題　　ページ

1　地区の現況 …… 1 ～ 2

2　地区の問題点及び課題 …… 2 ～ 3

Ⅱ．地区の整備目標及び方針

整備目標及び方針 …… 3

Ⅲ．里づくり計画

1　農業振興計画

(1)生産基盤の整備 …… 3

(2)地域の営農 …… 4

(3)担い手の育成確保 …… 4

(4)共同農業施設・機械の整備 …… 4

2　環境整備計画

(1)生活面 …… 5

(2)福祉・医療面及び教育・文化 …… 5

(3)地域づくり活動 …… 5

3　土地利用計画

(1)農村用途区域の設定 …… 6

(2)個別的施設用地 …… 6

(3)公共的施設用地 …… 6

4　景観の保全及び形成に関する計画 …… 6 ～ 7

5　地区と市街地との交流に関する計画 …… 7 ～ 8

関係資料

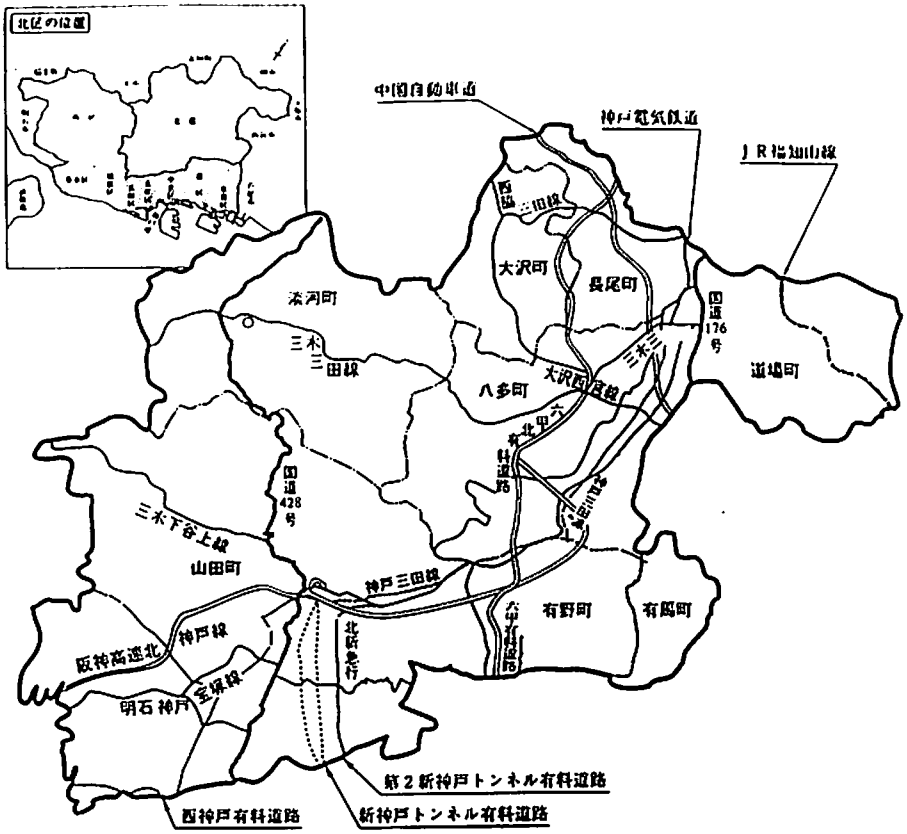
みんなで描く里づくり計画 …… 9

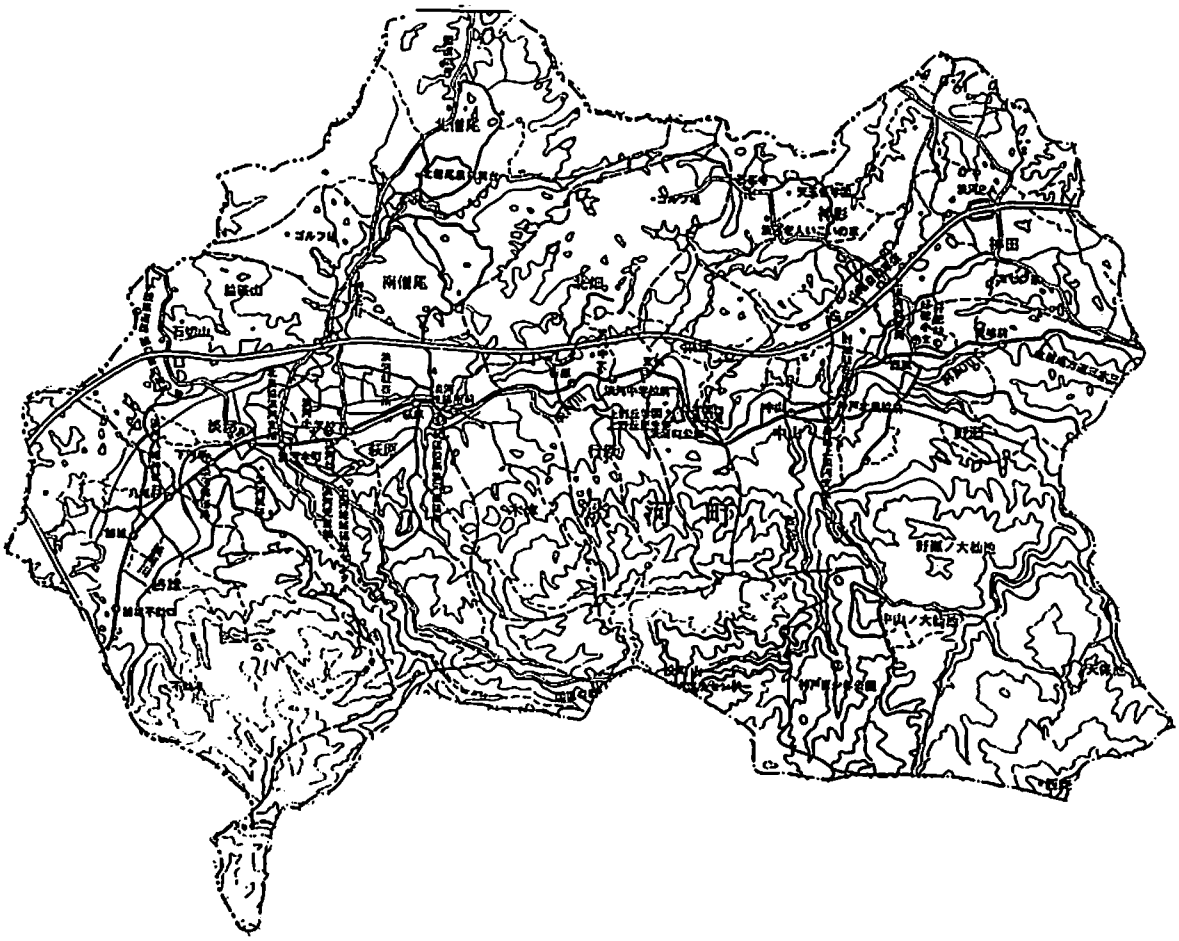
土地利用計画図，現況図 …… 10 ～11

里づくり計画策定経過，里づくり協議会役員名簿 …… 12

木津里づくり協議会規約 …… 13 ～14

木津　諸行事 …… 15


北区の位置
中国自動車道
神戸電気鉄道
ＪＲ福知山線
西脇三田線
大沢町
長尾町
道場町
淡河町
三木三田線
八多町
大沢西区線
三木
国道176号
六甲
有馬
国道428号
三木下谷上線
山田町
神戸三田線
有野町
有馬町
阪神高速北
神戸線
北新幹線
明石神戸
宝塚線
第２新神戸トンネル有料道路
西神戸有料道路
新神戸トンネル有料道路


北僧尾
南僧尾
北区
神田
石切山
淡河
淡河町

木 津 里 づ く り 計 画

『新しい地域文化の創造をめざす里── 木津』
－集落まるごと公園化構想－

Ⅰ　地区の現況と課題

1　地区の現況

(1)　計画対象区域は，平成１０年３月２９日に設立（市認定平成１０年５月１３日）された別図－１の木津里づくり協議会区域とする。

(2)　当地区の南側は，丹生山系の山すそにあたり，緑地の保全・育成及び市民利用に関する条例によって「みどりの聖域」に指定されている。

(3)　集落の北側は，加古川上流の淡河川が東から西に流れ，それに平行して，県道三木三田線が通過している。主として，農家の多くは河川左岸（南側）のゆるやかな平坦地に広く散居しており，県道沿いには８戸の住居・商店（喫茶店，美容室，ミニストア，製材所）と北区役所淡河連絡所等が並んでいる。

(4)　当地区の全域が市街化調整区域（都市計画法），共生ゾーン区域（人と自然との共生ゾーンの指定等に関する条例）に入っており，同条例に基づく農村用途区域としては，現況に合わせて農業保全区域と環境保全区域に指定されている。

(5)　当地区の世帯数は，総世帯数３４戸でそのうち農家世帯数は３１戸である。総人口は，１３９人で，最近の１０年間の人口推移は減少傾向にある。
　また，年齢階層別にみると１４歳以下の若年層が大幅に減少しており少子化が進んでいる。６５歳以上の高齢者については，現在のところ人口比率に変化は見られない。

(6)　生産基盤の整備として，県営淡河ほ場整備事業によって現在整備中であるが，面工事も平成１２年度に完了予定である。

(7)　農業生産面では，うるち米「日本晴，キヌヒカリ，コシヒカリ」，酒米「山田錦」等稲作と花卉「ユリ，チューリップ」の栽培が行われている。稲作については，平成９年５月に設立している営農組合が主体になって，作業受託に取り組んでおり，平成１１年秋から集落の振興作物として，麦の団地化栽培を始めている。

(8)　基盤整備事業によって既存のため池が統廃合され，非農用地を設けている。この集落の南側にあった共有のため池跡地には，社会福祉法人「光の村授産学園」の設立計画が進められている。

(9)　下水道の整備については，現在未了であるが生産基盤の整備の完了後，早期に集落排水事業の実施が予定されている。

表－1

木津地区農業の概要　　〔総世帯数，総人口は国勢調査，その他は農業センサスほか〕

項目／年度	総世帯数	総人口	年齢3区分(人口比率)			専兼別農家数(戸)				農家人口(人)	農業従事状態世帯員数(男)		
			0～14	15～64	65以上	総農家数	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家		自家農業のみ	自家農業が主で兼業が従	自家農業が従で兼業が主
S 60	36	174	28	114	32	33	2	3	28	158	13	5	34
H 2	37	155	22	101	32	32	2	14	16	150	9	2	33
H 7	34	139	13	100	26	31	2	5	24	130	11	2	34

農業従事状態世帯員数(女)			農業従事状態世帯員数合計(人)	経営耕地面積(a)				主要作物別収穫面積(a)				施設(㎡)
自家農業のみ	自家農業が主で兼業が従	自家農業が従で兼業が主		田	畑	樹園地	合計	稲	野菜	花	豆いも	ビニールパイプハウス
33	1	24	110	2,325	26	-	2,351	1,947	38	84	58	22
19	2	19	84	2,374	30	-	2,404	1,740	80	78	26	29
27	1	13	88	2,347	17	32	2,396	1,779	225	130	4	83

2　地区の問題点及び課題

当地区の農業生産基盤は，現在整備中であるが面工事も平成１２年度末に完了予定であり，集落内の現状からして，兼業農家による今後の農地の維持・管理や自然豊かな農村景観の保全・活用，社会福祉施設の設置促進と地域との交流による活性化が課題となっている。

さらに，地域活性化の課題も山積しており，集落を含む広域的な取組が望まれる。

(1)　快適な生活環境の創造

ｱ　ほ場整備によって，生活環境は道路条件を中心に大きく改善される。ほ場整備によって，ため池が統廃合されたために，防火施設の見直しも必要となっている。

ｲ　生活関連施設整備として，地区のシンボルとなる（住民の心のよりどころとなる）空間を整備することが，地区住民の「心の活性化」を図る上で重要である。そのために，大歳神社周辺の市民公園，広場の整備を行うことが必要となっている。

ｳ　道路整備として，僧尾山田線の建設促進が望まれる。

ｴ　集落行事や生活環境は，それ自体が地域文化の一部であり，地域のアイデンティティの確立に貢献している。しかし，都市化・兼業化が進んだ今日の生活にそぐわない点もみられるため，集落行事の整理統合や葬式の見直しを検討するとともに，レクリエーションクラブの創設なども課題である。

(2) 高齢化への対応

今後，高齢化が進むことが予測されるため，高齢者に優しい生活空間づくり，高齢者が楽しく暮らせる生活環境づくり等が重要である。

(3) 地区農業の振興

ほ場整備事業によって生産基盤が大きく改善される今こそ，長期的な視点にたって地区農業の振興が必要である。

また，ほ場整備後は，転作作物を十分検討して本腰を入れて取り組むとともに直売所の設置についても取り組む必要がある。

(4) 交流による活性化

地区住民と福祉施設「光の村」との相互理解を深めるためにも「光の村」との交流づくりを進める必要がある。（イベントの共催，食材の提供，光の村の父兄との交流会など）

現在取り組んでいる学童農園を大きく発展させることや貸し農園，観光農園（ｵｰﾅｰ制果樹園）についても取り組む必要がある。

(5) 美しい景観づくり

ほ場整備の進捗によって地域景観が大きく変化してきているため，新たな景観づくりに取り組む必要がある。

農家の建物（茅葺き家屋）などの，原風景である伝統的農村景観を保全していく必要がある。

(6) 自然資源の利活用

木津地区にある地域資源で未利用・低利用の状態にあるものとして，里山・ため池・竹林等がある。最近では，地区住民も里山には殆ど足を踏み入れなく，また，今回のほ場整備事業で水不足の心配もなくなり，これから里山・ため池・竹林等の資源を如何に活用するかを検討していく必要がある。

Ⅱ 地区の整備目標及び方針

当地区活性化のために，生産及び生活環境の整備を進め，地区の立地条件を活かした農業振興を図るとともに，都市住民との交流を通じて，活性化を図っていく。

また，快適な生活環境の創出と美しい自然景観の維持・形成や伝統文化の継承といった文化面での活性化，ほ場整備後の新たな生活環境の形成と農地の有効活用を図っていく。

このため，地区の整備目標および方針として，次の項目を柱として進める。

①ほ場整備完了後の快適な生産・生活環境の整備を進める。

②活力ある集落営農システムの形成を図る。

③社会福祉施設の設置促進と地域との交流による活性化を進める。

④当地区の良好な自然環境及び農村景観の保全・形成を図る。

Ⅲ 里づくり計画

1 農業振興計画

営農組合を中心に，ほ場整備後の優良農地の活用を図るとともに転作対応も含めて，農地の高度利用を促進する。

(1)生産基盤の整備

当地区で実施している県営淡河ほ場整備事業によって，面工事も平成１２年度完了予定である。今後は優良農地の効率的な活用を図っていく。

(2)地域の営農

基盤整備後の営農については，営農組合を核として水稲・麦の団地化，野菜，果樹等の振興を図る。労力面の確保のため，営農組合を核に婦人会，老人会と連携を図りながら取り組んでいく。販路については，農産物直売所及び地元に新設される福祉施設「光の村」への食材提供等を進める。

ｱ 稲・麦の振興

・稲作については，生産調整に努めるとともに栽培技術の向上により良質米の生産を図り，有利販売を進める。
・麦作について栽培技術の確立と共同機械の導入による作付の団地化に取り組む。

ｲ 野菜の振興

・減反田を有効利用して有機野菜の生産を振興する。
・地域特産物として，「㊫のトマト」の復活や黒大豆，里イモ，ジネンジョ等の栽培を振興する。

ｳ 果樹の振興

・果樹園の整備をして，柿，栗等を新たに植栽する。
・果樹のもぎ取り園としての整備を進める。
・オーナー制果樹園（リンゴ，もも，みかん，いちじく等）としての整備を進める。

ｴ 農産物直売所（青空市）の整備

・土，日曜日に県道に面した新橋周辺の広場で農産物直売を進める。
・転作対応を含めた自家菜園の作物を直売所で販売する。
・将来的には，本地区の単独運営，周辺地区と共同運営，或いは農協などの直売施設への出品のいずれの方式が適当であるかを検討する。
・農産物直売所の自動販売機の導入や光の村の生産物との共同販売を検討する。

ｵ 地元に新設される福祉施設「光の村」への食材提供等

・営農組合等で作った食材（米・野菜等）の提供をする。
・福祉施設「光の村」の体験農園としての田畑を貸出しする。

ｶ 減反田の有効利用による観光農園の整備

・いも掘り農園（さつまいも，じゃがいも）を実施する。
・貸し農園の整備をする。

(3)担い手の育成確保

各農家を個々の担い手として考えるのではなく，営農組合を地域農業の担い手として各農家が結集し，農業経営のコスト低減・農作業の合理化を図るとともに営農組合に対して，協力していく。

(4)共同農業施設・機械等の整備

営農組合として，大歳神社の西側に共同作業場兼農機具格納庫を建築するとともに大型機械（田植機，コンバイン）を早期導入する。

2　環境整備計画

地区住民にとって，快適で住みよい環境整備を図る。

(1)　生活環境

ｱ 生活

・集落行事や慣習を大事な地域文化の一部として育てつつ，現在の生活様式にも沿うように整理統合を検討する。

・葬式の簡素化の検討を始める。

ｲ 道路整備

・集落行事として草刈り等の「道普請」を年２回（春，秋）農繁期前に実施する。

・ほ場整備事業による農道の早期舗装を進めるとともに後々の維持管理を考えた市道へ移管を促進する。

ｳ 救急・防災・防火・防犯対策

①火災，犯罪，急患等の対応として，緊急連絡体制の整備をはかる。

②防災福祉コミュニティ活動の充実

地域での防災訓練，防災講習会，防災マップづくり，高齢者への防災訪問等地域特性に応じた活動，幅広い住民参加を目指すとともに，地域での防災活動を継続できるシステムづくりを進める。

・日頃からみんなで助け合う活動の定着化を図っていく。

・日頃の福祉活動をはじめとする地域活動で積み重ねられた情報を災害時にも活用できるようにしていく。

・地域の防災訓練や安全マップづくり，お祭り，運動会，イベントなどを通してコミュニティを創造し，協力しあえる地域づくりを進める。

ｴ 下水

ほ場整備事業完了後，集落排水事業の早期実施により下水道の早期完成を求めていく。

ｵ ゴミ対策

・ゴミステーションの新設を検討する。

・家庭用生ゴミ対策として，土壌還元するなりしてゴミの減量化につとめる。

(2)福祉・医療面及び教育・文化

高齢者への声かけ運動や給食サービス等を実施し，高齢者福祉のネットワーク化を検討する。

(3)地域づくり活動

・大歳神社の西側に多目的広場を整備する。

・大歳神社の周辺も一体的に整備する。

3　土地利用計画

秩序ある土地利用を計画的に進めるため次の計画をたてる。

(1)農村用途区域の設定

「農業保全区域」　ほ場整備による優良農地のまとまりを中心として散居家屋等を含めて指定されている。当面区域変更は計画しない。

「環境保全区域」　里山等を主体として指定されている。当面区域変更は計画しない。

「集落居住区域」　当面区域指定は計画しない。

「特定用途区域」　当面区域指定は計画しない。

※　社会福祉法人．光の村授産学園の予定地については，1haに満たないため特定用途A区域の設定は，見送るがいずれ拡張計画により面積が増えれば，設定を考える。

(2)個別的土地利用計画

①農業用施設用地	8 件	1,890 ㎡
②農家住宅・分家住宅用地	14 件	3,463 ㎡

（いずれもほ場整備事業による非農用地区域設定済である。）

(3)公共的施設用地

①社会福祉施設	1 件	4,743 ㎡
②多目的広場（共同作業所）	1 件	2,140 ㎡
③防火用水槽	1 件	200 ㎡
④駐車場	2 件	400 ㎡
⑤地神講地蔵	1 件	361 ㎡

4　景観の保全及び形成に関する計画

(1)　農村景観

農村の豊かな自然環境を地域資源として，保全・活用するため，地域住民が主体となって花を中心とした美しい農村景観を創りだし，「集落まるごと公園化」を進める運動をしていく。

ｱ 木津地区まるごと花いっぱいの美しい農村景観を創りだす運動。

主要道路の路肩を利用して，フラワーロードにしていく。

ｲ 道路から見える畦畔などに桜など，畦畔に花やヒラドツツジ，サツキなどを植栽する。

ｳ 案内板の設置や道路に愛称をつける。農村景観にマッチした手づくりの集落案内図や道路案内図を創作する。

ｴ 休耕田を活用した花いっぱい運動を展開する。

コスモスを景観作物，レンゲ（花）を地力増進作物として植栽を推進する。

ｵ 茅葺き家屋をはじめ，景観的に優れた農家の保存を進めるため，住民の意識高揚を図る。

〔参考〕アイデア一覧

(2)自然景観

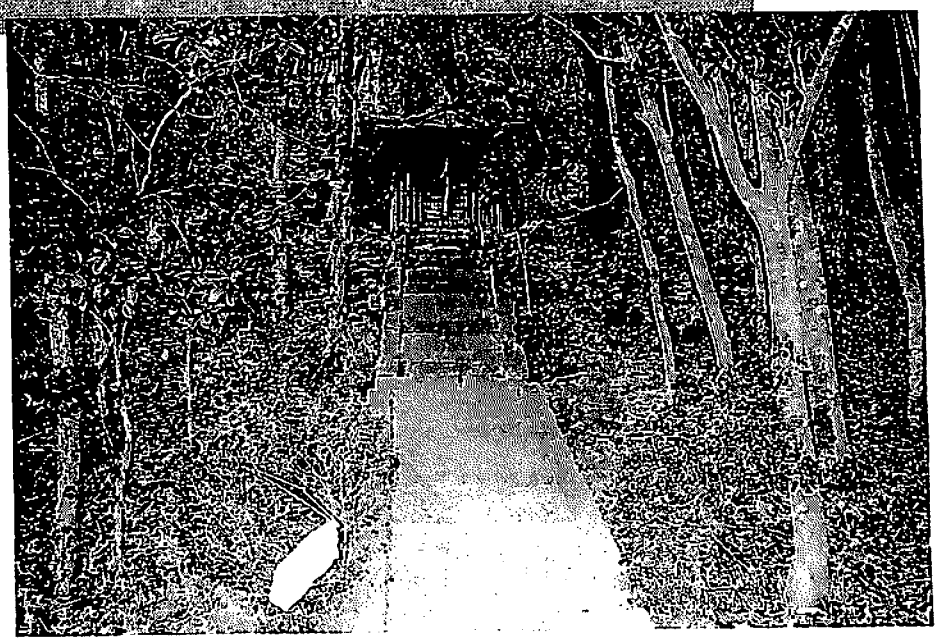
ｱ 淡河川川岸（特に木津大橋周辺及び淡山疎水の取水口）を保全していく。

ｲ みどりの聖域に連なる南側山麓一帯に山桜などを植栽し，保全していく。

(3)歴史的景観

歴史的な建造物として大歳神社，永徳寺，毘沙門天，薬師堂，室神社，愛宕神社の維持・管理の強化を図っていく。

［愛宕神社］



［室神社］

5　都市との交流に関する計画

農地，里山や農村文化等の地域資源を活用し，都市と農村との交流を通じて地域の活性化を図るため，次の事業を進める。

(1)福祉法人「光の村」との連携強化

ｱ 光の村と共同でお祭りを検討していく。

・既存の祭り（大歳神社の夏・秋まつり，愛宕まつり，毘沙門天のまつり等）への参加

ｲ 光の村に農地を提供して栽培指導（共同作業）を行う。

ｳ 光の村の親と地域住民の交流会（相互家庭訪問）を検討していく。

(2)学童農園，体験農園の実施

田畑を利用して学童農園，体験農園を検討していく。

(3)貸し農園・観光農園の整備

ｱ 市民貸し農園の整備をしていく。

ｲ 減反田の有効利用によるいも掘り農園（さつまいも，じゃがいも）を実施していく。

(4)自然資源の活用

近々に神戸市へ中国からパンダがやって来る。パンダの食材の笹を淡河町全体で調達することになる。木津集落においても，竹林が沢山あり自然資源の活用を図るため，竹を活用して竹炭，竹加工など技術，販路等について研究していく。

(5)新しい余暇活動の創出

年代別に楽しめるレクリェーションクラブの結成を検討していく。

グランドゴルフ，ゲートボール，バレーボール，カラオケ教室，生け花教室等既存のクラブを充実し，さらに少年野球のクラブ結成を検討していく。

(6)集落内交流

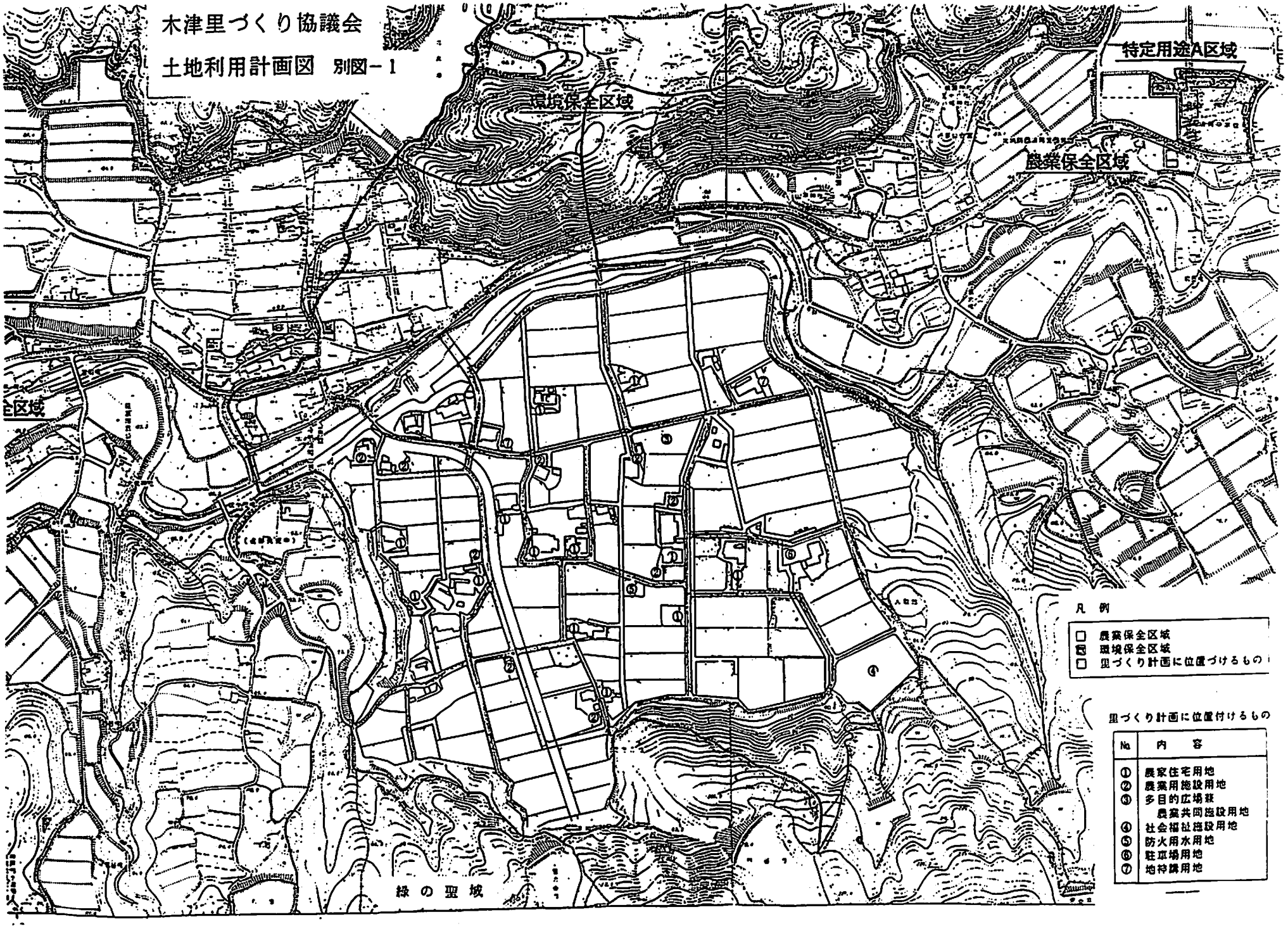
世代間の交流促進として村内で懇親会を開催する。

《里づくり計画の実行》

里づくり計画実現のために，集落住民が一体となって着実に事業を進めることが重要である。
そこで事業をより円滑に進めるための専門部会として，
『1.農業振興　2.環境整備　3.土地利用　4.景観保全・形成　5.交流』の５つ部会活動を進める。

木津里づくり協議会

土地利用計画図　別図－1

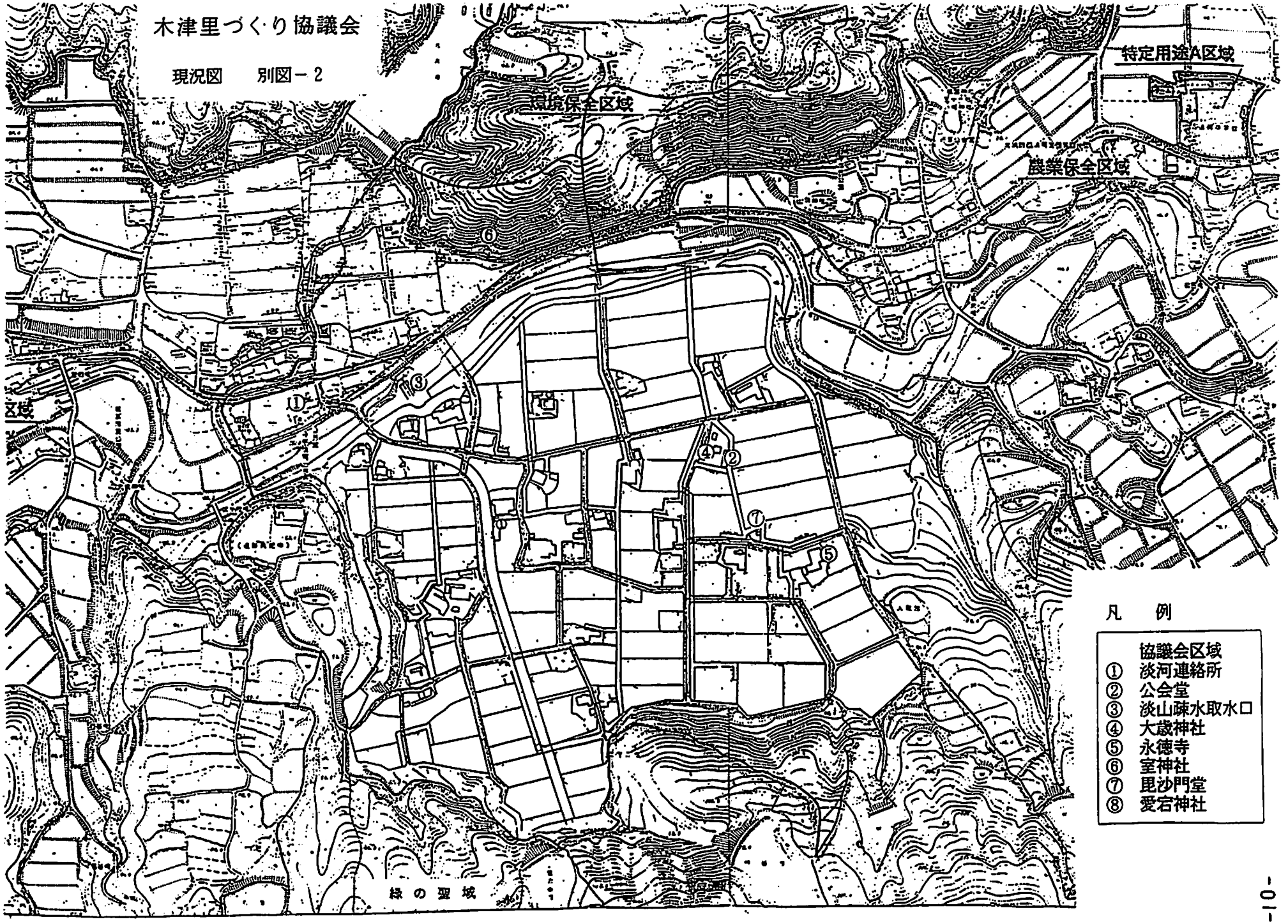


里づくり計画に位置付けるもの

No.	内　容
①	農家住宅用地
②	農業用施設用地
③	多目的広場兼 農業共同施設用地
④	社会福祉施設用地
⑤	防火用水用地
⑥	駐車場用地
⑦	地神講用地

木津里づくり協議会

現況図　別図－2



表－2
里づくり計画策定経過

助言者：星　野　　敏

年　月　日	実　施　内　容	参　集　者
平成１１年 ９月１８日	・里づくり計画策定推進調整会議	協議会役員　　計 11名
１０月２６日	・現地調査 ・現状，課題整理	アドバイザー 協議会構成員　計 20名
１２月　６日	・課題整理と対応協議 ・アンケート調査	アドバイザー 協議会構成員　計 21名
平成１２年 ２月　４日	・里づくり計画骨子の検討 ・専門部会の設置	協議会役員　　計 22名
２月１０日	・活性化構想のアイデア評価結果 ・重点項目の検討	アドバイザー 協議会構成員　計 23名
２月２３日	・社会福祉施設「光の村」代表者との協議	アドバイザー 協議会役員　　計　8名
３月２０日	・里づくり計画（素案）の検討	アドバイザー 協議会構成員　計 23名
４月１８日	・里づくり計画（案）の検討	協議会役員　　計 17名
５月２０日	・里づくり計画（案）の承認 （里づくり協議会総会）	アドバイザー 協議会構成員　計　名

表－3
木津里づくり協議会役員名簿

（平成１２年４月１日現在）

役　職	氏　　名	〒	住　　所	電　話	備　考
会　長	[redacted]				
副会長					
会　計					
相談役					
〃					

表－4

木津　諸行事

項　目	行事日程	場　所	参加人数	内　容
大歳神社 （頭渡し・指さしの祭り）	1月1日午後1時	大歳神社の長床 （木津公会堂） （遙拝所）	30名	当番（2戸）（ホントウ．アイトウ）神主任期 1/1~9/13 こうぞまで 8時　金比羅さん，祇園さん，明神さん，天王さん，住吉さん 愛宕さん，毘沙門さん 10時　オトウ の行事の準備。 13時　神事始まる。
大歳神社 （夏祭）	7月16日正午過ぎ	大歳神社の長床 （木津公会堂）	40名	正午過ぎ　お供え物を手渡し（小餅又はお菓子） 午後1時頃　長床で御神酒（酒3本，タコ又は生ずし） 3時 ~ 4時　もちほり 夜　音頭大会
大歳神社 （コウゾ祭）	9月13日午後1時	大歳神社の長床 （木津公会堂）	30名	神主の交替の行事 任期は 1月 1日まで
大歳神社 （秋祭）	12月16日午後1時	大歳神社の長床 （木津公会堂）	40名	夏祭と同様
室神社 （祭り）	12月23日午後1時	室神社	5名	祭典は明神講が行う。講元がつとめる。 昼すぎより講元の家に集まる。
愛宕神社 （祭り）	7月24日午後6時	大歳神社の長床 （木津公会堂）	30名	講元（3戸1組） 夕方6時すぎ，懐中電灯をもって愛宕山へのお参り。
毘沙門堂 （祭り）	1月 3日午前10時	毘沙門堂	20名	永徳寺の僧侶により読経。
伊勢講	1月11日午後1時	大歳神社の長床 （木津公会堂）	30名	講元（3戸1組） 伊勢参りは4年に1回実施。 （3月20日前後に伊勢講と同様の集まり）

【参　考】

資料－1　ＴＮ法による活性化のアイデアとその評価
(1)木津地区活性化構想のアイデア　－図解による整理－　ページ　1 ～ 2
図-1　木津地区活性化構想のアイデア　3

(2)アイデア評価の集計結果　4 ～ 6

(3)今後の展開方向についてのアドバイス　6
表-1　木津地区活性化アイデアの集計結果　7 ～ 8
図-2　男女別グループ間の評価結果の差　9
図-3　年齢区分別グループ間の評価結果の差　10
図-4　農業従事別グループ間の評価結果の差　11

資料－2　木津地区の生活慣習・行事に関する調査結果
(1)集落行事・慣習に関する意向の結果　12 ～15

(2)集落行事の評価
1）集落行事・慣習への参加度　16
2）集落行事に対する満足度　17
3）集落行事に対する見直し意向　18

(3)参加度，満足度，見直し度の相互関係　19

(4)自由回答意見の整理　20
生活行事・慣習についての自由回答　21

(5)個々の行事の見直し方向　22 ～23

(6)余暇活動に関する集計結果　24 ～25

資料１　ＴＮ法による活性化のアイデアとその評価

（１）木津地区活性化構想のアイデア　－図解による整理－

1999 年 12 月の座談会では，全部で 60 項目のアイデアを提案してもらいました。別紙の図 1 はみなさんが提案されたアイデアをＫＪ法という手法で整理したものです。これらは以下の５つの主要なグループに分けることが出来ました。

美しい景観づくり
自然資源（溜め池と里山）の利活用
地区農業の振興
交流による活性化
生活環境の見直し
その他

各グループの内容は以下の通りです。

1) 美しい景観づくり

この課題グループは，木津地区をまるごと花いっぱいの美しい農村景観を創り出す運動をまとめてみました。『花いっぱい運動の展開』と言うことが出来ます。主要道路の路肩を利用して，フラワーロードにする，畦畔（けいはん）に花を植えるなどのアイデアに加えて，転作や労力不足のために仕方なく休耕田や管理水田となった農地に景観形成作物（レンゲ，コスモス，ひまわりなど）を植えることも検討してみるべきでしょう。
地区の案内板の設置や道路に愛称をつける項目も，美しい景観づくりの一貫として含めています。農村景観にマッチした手づくりの集落案内図や道路案内図を創作してみてください。

2) 自然資源（溜め池と里山）の利活用

木津地区にある地域資源で未利用・低利用の状態にあるものとして，里山と溜め池があります。地区の方も里山にはほとんど足を踏み入れなくなりました。また，今回の圃場整備で水不足の心配が無くなるので，埋め立てられた溜め池もあります。今回の里づくり計画は，この資源を如何に活用するかを考える大きなチャンスであると思われます。

3) 地区農業の振興

この課題グループは農業生産に関わるものを中心にまとめました。圃場整備事業によって生産基盤が大きく改善される今こそ，長期的な視点にたって地区農業の振興を考える必要があります。また，整備後は，転作に対しても本腰を

入れて取り組む必要があります。
水田農業の共同化（システム化）を強力に勧めること，地区に適した畑作物・果樹の導入をはかること，少量他品目の野菜や花卉を有利に販売するために，直売所の運営やイベントへの出品を検討してみる必要があります。また，地区農業の担い手をどうするかについても合わせて検討する必要があるでしょう。

4) 交流による活性化

木津地区の活性化を考える上で，交流による地区活性化はもっとも重要な柱の一つです。特に，現在取り組みのある学童農園を大きく発展させること（農業と教育の接点を拡大する），新たに地区のメンバーとして参加する「光の村」との交流促進に取り組むこと（イベントの共催，食材の提供など）は重要です。貸し農園，市民農園，観光農園，果樹・水田のオーナー制もアイデアが出ています。更に，美しい景観づくりと連携したイベントも検討してみるとよいと思われます。

交流の素材（他の人が地区を訪れたいと思う気持ちをひきおこすもの＝魅力の源泉）としては，農産物とその加工，美しい農村景観，林産物とその加工，里山・溜め池などの地域資源，そして，人と人とのふれあいなどです。従って，上記の(1)，(2)，(3)の課題グループと強く連動しています。

5) 生活環境の見直し

生活環境には，施設や基盤といった「もの」の整備と集落の行事や葬祭などの見直しの２側面があります。これをハードの整備とソフトの見直しと呼ぶことにします。
圃場整備によって，生活環境は道路条件を中心に大きく改善されます。また，溜め池の埋め立てによって，防火施設の見直しも必要となります。また，これから更に整備が必要な生活関連施設としては，お宮周辺の公園，広場（グランドゴルフ），集会所施設などがあります。そして，更に重要な整備としては，僧尾―山田線の建設促進があります。
一方，ソフトの見直し（行事や慣習，新しい地区活動など）の中で主なものは，葬式の見直し，集落行事の整理統合，レクリエーションクラブの創設などです。これまでの集落行事や葬儀の慣習をもう一度見直し，現在の生活様式にそったものに変えることが必要かもしれません。ただし，これらの行事や慣習は大事な地域文化の一部であることも忘れるべきではないでしょう。

6) その他

その他の課題グループには，「空き家の利用」と「外側の支援がないと実現しない施設整備」が含まれます。実現の可能性があまり大きくないように思われます。ただし，空き家の利用については，所有者のご厚意(同意)が得られれば，いろいろな活用方法が考えられます。

図１　木津地区活性化構想のアイデア

作成日：2000.1.1
場　所：岡山大学農学部
情報源：
作成者：藍野　敏

景観づくり

美しい農村景観づくり

- 梅を植えて，景観づくり
- 花を利用したけいはん整備
- 休耕田のを活用したれいっぱい運動（フラワーロード）
- 茅葺きの家を保存する（景観づくり）

案内板の設置

- 各道路に名称をつける
- 村の入り口（橋）に案内板をもうける

自然資源の活用

溜め池の利活用

- ため池を釣り堀にする
- ため池でにしき鯉の養殖をする
- ため池でマスを飼育する
- ため池で合鴨の飼育をする（かも鍋を名物にする）

里山の利活用

- 里山の利用（松茸の生える松林にする）
- 里山の利用（ザクロの木を植える）
- 里山の利用（榊，しきびを植えて，経済的に活用する）
- 光の村へ教育用の山林を貸与する
- イノブタの飼育を行いボタン鍋を名物にする
- 愛宕山散策ルートの整備

親水空間の整備（ハード）

- ホタルの住むせせらぎをつくる
- ため池を親水公園として利用する

地区農業の振興

圃場整備後の集落営農システムの構築

- 農作業の共同化（集落営農システム）
- 農機具の下取りを組織的に行う

野菜づくりの振興

- 有機野菜の生産を振興する（木津ブランド）
- 光の村に食材（米・野菜）を供給する
- 農産物の直売所（青空市）を整備する

新たな転作作物の確立

- 減反田を利用したそばを生産する
- 減反田を利用した黒大豆の生産
- 転作作物としてウドの栽培する

果樹の振興

- 果樹園の整備（柿を特産物にする）
- 果樹園の整備（栗園をつくる）
- オーナー制の果樹園をつくる

新たな農産加工品の開発

- 農産物の加工場の整備（もち）
- 濁り酒（どぶろく）による里おこし（加工）
- 竹製品の生産，販売をする
- 白菜を生産し，加工品にする

交流による活性化

「光の村」との連携強化

- 光の村と共同のお祭りを開催する
- 光の村に農地を貸して，栽培を指導する
- 光の村の親と地域住民が交流会を開く（家族ぐるみのつき合い）

学童小学校（農業小学校）の充実

- 学童小学校を充実する（面積を拡大して，より幅広く解放する）
- 市民公園内にバーベキュー場をつくる

貸し農園・観光農園の整備

- 貸し農園の整備
- 観光農園の整備（サツマイモをつくって）
- 観光農園の整備（イチゴ園にする）

自然体験型施設の整備（ハード）

- キャンプ場を整備する
- 野外活動センターをつくる

空き家の利活用

- 空き家を利用して「光の村」と交流（グループ・ホーム）
- 空き家を利用して資料館（生活用具，農機具）を整備する
- 空き家を利用して都会の子供を受け入れる

生活環境の見直し

集落行事と慣習の見直し

- お葬式を簡略化する
- 夏祭りをリニューアルする
- 集落行事を整理統合する

新しい余暇活動の創出

- レクリエーションクラブをつくる
- 村で飲み会を開く（世代間の交流促進）

生活環境の整備（ハード）

- レクリエーションの場所の整備（グランドゴルフ場を整備する）
- 市民公園を再整備する
- 防災施設の充実
- 墓地を一カ所に集める
- 集落内の道路の整備を行う（備尾一山田線）

外部資本を導入した施設整備

- 温泉を発掘して，共同浴場をつくる
- 風力発電の開発
- 老人ホームをつくる
- 集落内に住民のための店（コンビニ）をつくる
- 集落内に企業を誘致する（雇用の場をつくる）

（２）アイデア評価の集計結果

1) 高得点のアイデア項目

参加者全員で評価した結果は表 1 のとおりです。この表は，参加者の得点の平均値（最大を 6 点，最小を 1 点としたときの平均値）を示しています。アンケートでは４つの質問項目（総合評価，緊急度，参加度，実行度）を設定していましたが，４つとも非常に似かよった結果となりました。それで，以下では，総合評価だけを用いることにします。

表２は，評価値が 4.00 以上のアイデアです。全部で 19 項目ありました。⑤生活環境の見直し（7 項目），①美しい村づくり（4 項目），④交流による活性化（4 項目），④農業振興（4 項目）の４つの課題グループに含まれるアイデアが高く評価されています。

表２　高得点のアイデア一覧

順位	アイデア項目	総合評価	主要グループ名
1	防災施設(防火用水)の設置	4.64	⑤生活環境の見直し
2	葬式の見直し	4.54	⑤生活環境の見直し
3	案内板の設置	4.50	①美しい景観づくり
4	行事の整理統合	4.50	⑤生活環境の見直し
5	観光農園・サツマイモ	4.35	④交流による活性化
6	直売所の整備	4.31	③地区農業の振興
7	光の村への食材供給	4.20	④交流による活性化
8	グランドゴルフ場の建設	4.19	⑤生活環境の見直し
9	レクリエーションクラブの創設	4.15	⑤生活環境の見直し
10	フラワーロード（花いっぱい運動）	4.12	①美しい景観づくり
11	黒大豆の生産振興	4.08	③地区農業の振興
12	市民公園の再整備	4.08	⑤生活環境の見直し
13	僧尾―山田線の道路整備	4.08	⑤生活環境の見直し
14	貸し農園の設置	4.04	④交流による活性化
15	道路に名称をつける	4.04	①美しい景観づくり
16	けいはんに花を植える	4.04	①美しい景観づくり
17	梅の栽培	4.00	③地区農業の振興
18	有機野菜の振興	4.00	③地区農業の振興
19	光の村と共同でお祭りを開催	4.00	④交流による活性化

もっとも評価値が高かった項目は防火施設の整備でした。また，第 2 位の葬式の見直しと第 4 位の行事の整理統合は，ともに生活慣習の見直しに関する項目です。表2の 19 項目の中に，生活環境整備に関わる項目が 7 項目も含まれています。生活環境整備（施設の整備と行事の見直し）は今後の木津地区の最重要課題であると言えます。

交流による活性化グループでは，貸し農園や観光農園，福祉施設「光の村」との共催行事が高く評価されています。特に，住民と施設の相互理解を深めるためにも，「光の村」との交流づくりを進める必要があるように思われます。一方，美しい景観づくりのグループでは，集落案内板の設置，花いっぱい運動などが上位に来ています。美しい景観づくりはそれ自体が交流の素材となるので，交流による活性化の課題と連動して考えるとよいでしょう。

農業振興の課題グループでは，直売所の設置と有機野菜の振興，黒大豆，梅などの転作作物の振興が上位に来ています。直売所の設置を考える場合には，本地区の単独運営，周辺地区と共同運営，あるいは農協などの直売施設への出品のいずれの方式が適当であるかを検討する必要があるでしょう。

2) 男女別・年齢別・職業別グループの比較

回答者個人の性格によって，評価値が異なることが予想されます。そこで，ここでは，男女別，年齢別（59 才以下と 60 才以上の 2 構文），職業別（農業従事か農業以外かの 2 区分）にみた評価結果の違いを考察します。

①男女別比較

図 2 は男女間で評価値の差が大きかったアイデア項目を抜き出したものです。男性グループでは，里山利用（里山・イノブタ飼育），溜め池活用（合鴨飼育，錦鯉，マス飼育），野外（野外活動センター，キャンプ場，ホタルの住める親水空間）などの項目が女性グループよりも高くなっていました。一方，女性グループの評価値が高かった項目には，釣り堀（溜め池利用），レクリエーションクラブの創設，光の村への食材供給，案内板の設置，黒大豆生産の振興などです。やや男性グループの方が地域資源の利用に積極的なようです。

②年齢別比較

図 3 は年齢別の比較結果を示した図です。年齢区分は 59 才以下と 60 才以上の 2 区分です。概して，59 歳以下のグループの評価値が高くなっています。光の村との連携（グループホーム，父兄との交流会，共催のお祭り），景観づくり（フラワーロード，花・けいはん，道路名称），空き家の活用（交流拠点，資料館），観光農園（果樹園・オーナー制，学童小学校），ため池利用（親水公園，錦鯉養殖）などが高くなっています。また，比較的若い世代で，農機具の下取りに対する意向が強いことも指摘しておきます。

このように年齢によって，意向の違いが明らかになりました。今後は，若い世代の意向を汲み上げる必要があるように思われます。

③職業別比較

図４は農業従事か，農業以外かでグループ分けをして，評価値の得点差が大きいものを示した図です。これは，職業欄の専業農家と兼業農家を農業従事グループに，それ以外を農業以外グループとしたものです。農業従事グループでは企業誘致が高くなっています。一方，農業以外グループでは，景観づくり（フラワーロード，レクリエーションクラブ，道路名称）の評価値が高くなっています。また，生活環境の整備（市民公園の再整備，バーベキュー場，グランドゴルフ）への関心が高くなっています。

④まとめ

グループ別に見た評価値の相違を明らかにしました。グループ別に見た評価値には，かなり大きな開きがあることが分かります。男性グループ，若い世代グループ，農業以外のグループの方が活性化に積極的でした。男性では，地域資源への注目度も高いようです。また，若い年齢グループでは，光の村との連携や景観づくりの意向が，また，農業以外のグループで景観づくりや生活環境への取り組み意向が強いようです。

これからの地区活性化の組織体制を整える上で，幅ひろい年齢階層と職業構成に留意すること，男女の比率を１：１に近づけることが特に重要であるといえます。

（３）今後の展開方向についてのアドバイス

６つのグループの中で，とくに座談会での評価結果が高かった４つのグループについて部会を設置してはどうでしょうか。

「美しい村づくり部会」，「地区農業再編・振興部会」，「交流による地区活性化部会」，「住み良い生活環境部会」の４部会です。なお，それぞれの名称はもう少し親しみがもてるように工夫してください。

各部会の柱となるテーマは，ＫＪ図を参考にしてください。その図の中のアイデアだけでなく，幅広く，どのような事に取り組めるかを議論してください。責任体制をとるためには，各部会の部長（および副部長）を決めた方がいいと思います。部会の検討結果を，全体会議で部長から報告してもらうようにするとよいのではないでしょうか。

各部会には，30歳代～50歳代の若い世代が参加してもらうこと，また，女性の割合を高くすることに，特に留意してください。女性は半数くらい参加してもらう方がいいです。部長・副部長を女性にしてみるのもいいかもしれません。

表1　木津地区活性化アイデアの集計結果

単純集計結果			平均値			
No.	順位	アイデア項目	総合評価	緊急度	参加度	実行度
1	34	そば生産	3.46	3.41	3.70	3.74
2	6	直売所の整備	4.31	3.70	4.15	4.33
3	31	果樹園・柿	3.50	3.37	3.37	3.63
4	9	レクリエーションクラブ	4.15	3.78	4.26	4.19
5	24	世代間交流の促進	3.76	3.19	3.92	4.00
6	54	里山・松茸	2.64	2.62	2.73	2.46
7	17	梅	4.00	3.85	4.00	4.22
8	14	貸し農園	4.04	3.96	3.96	4.00
9	11	黒大豆生産	4.08	4.30	4.07	4.15
10	28	果樹園・栗園	3.65	3.74	3.78	3.67
11	21	釣り堀	3.85	3.56	3.59	4.00
12	5	観光農園・サツマイモ	4.35	4.15	4.15	4.42
13	35	果樹園・オーナー制	3.46	3.37	3.37	3.37
14	29	観光農園・イチゴ	3.58	3.41	3.44	3.67
15	8	グランドゴルフ	4.19	4.04	4.41	4.30
16	15	道路名称	4.04	3.52	4.26	4.33
17	32	学童小学校	3.50	3.67	3.41	3.63
18	12	市民公園	4.08	4.15	4.30	4.19
19	16	花・けいはん	4.04	3.70	4.11	4.00
20	10	フラワーロード	4.12	3.96	4.19	4.22
21	18	有機野菜	4.00	3.89	3.89	3.93
22	60	温泉	2.19	2.07	2.52	2.00
23	33	農機具の下取り	3.50	3.41	3.26	3.22
24	30	愛宕山	3.54	3.44	3.78	3.67
25	45	農産物の加工場（もち）	3.23	3.15	3.33	3.19
26	55	光の村・グループホーム	2.58	2.78	2.81	2.70
27	1	防災施設	4.64	4.85	4.74	4.27
28	59	風力発電	2.24	2.08	2.15	1.96
29	47	里山・ザクロ	3.12	3.07	3.19	3.15
30	56	酒の加工	2.54	2.48	2.56	2.30

（つづき）

単純集計結果			平均値			
No.	順位	アイデア項目	総合評価	緊急度	参加度	実行度
31	37	里山・榊，しきび	3.40	3.19	3.50	3.50
32	50	墓地	2.85	2.56	2.70	2.52
33	19	光の村・お祭り	4.00	3.36	4.00	4.00
34	2	葬式	4.54	4.22	4.56	4.48
35	3	案内板	4.50	4.04	4.33	4.44
36	36	ホタル	3.44	3.15	3.50	3.50
37	20	光の村・農地	3.92	3.89	3.63	3.96
38	40	老人ホーム	3.38	3.37	3.26	3.04
39	22	夏祭り	3.85	3.52	3.81	3.78
40	46	光の村・山林	3.23	2.96	2.96	3.19
41	44	ため池・錦鯉	3.27	3.00	3.07	3.37
42	25	市民公園・バーベキュー場	3.76	3.46	3.96	3.73
43	48	竹製品	3.04	2.78	2.89	3.12
44	7	光の村・食材供給	4.20	3.81	4.08	4.31
45	4	行事の整理統合	4.50	4.04	4.41	4.59
46	57	空き家・資料館	2.46	2.32	2.52	2.32
47	58	空き家・交流	2.35	2.15	2.33	2.15
48	26	白菜・生産，加工	3.69	3.37	3.48	3.56
49	41	景観・茅葺き	3.35	2.89	2.85	2.93
50	13	道路整備	4.08	4.00	3.77	3.69
51	51	コンビニ	2.85	2.52	2.63	2.37
52	43	ウド栽培	3.28	3.08	3.27	3.27
53	38	ため池・親水公園	3.40	3.38	3.50	3.50
54	27	光の村・交流	3.69	3.15	3.63	3.67
55	42	野外活動センター	3.33	3.00	3.32	3.12
56	23	企業誘致	3.77	3.56	3.33	3.00
57	39	キャンプ場	3.40	3.04	3.38	3.35
58	53	里山・イノブタ飼育	2.69	2.59	2.81	2.70
59	49	ため池・マス飼育	2.92	2.74	3.07	3.00
60	52	ため池・合鴨飼育	2.73	2.70	2.93	2.89
		平均値	3.54	3.34	3.51	3.50

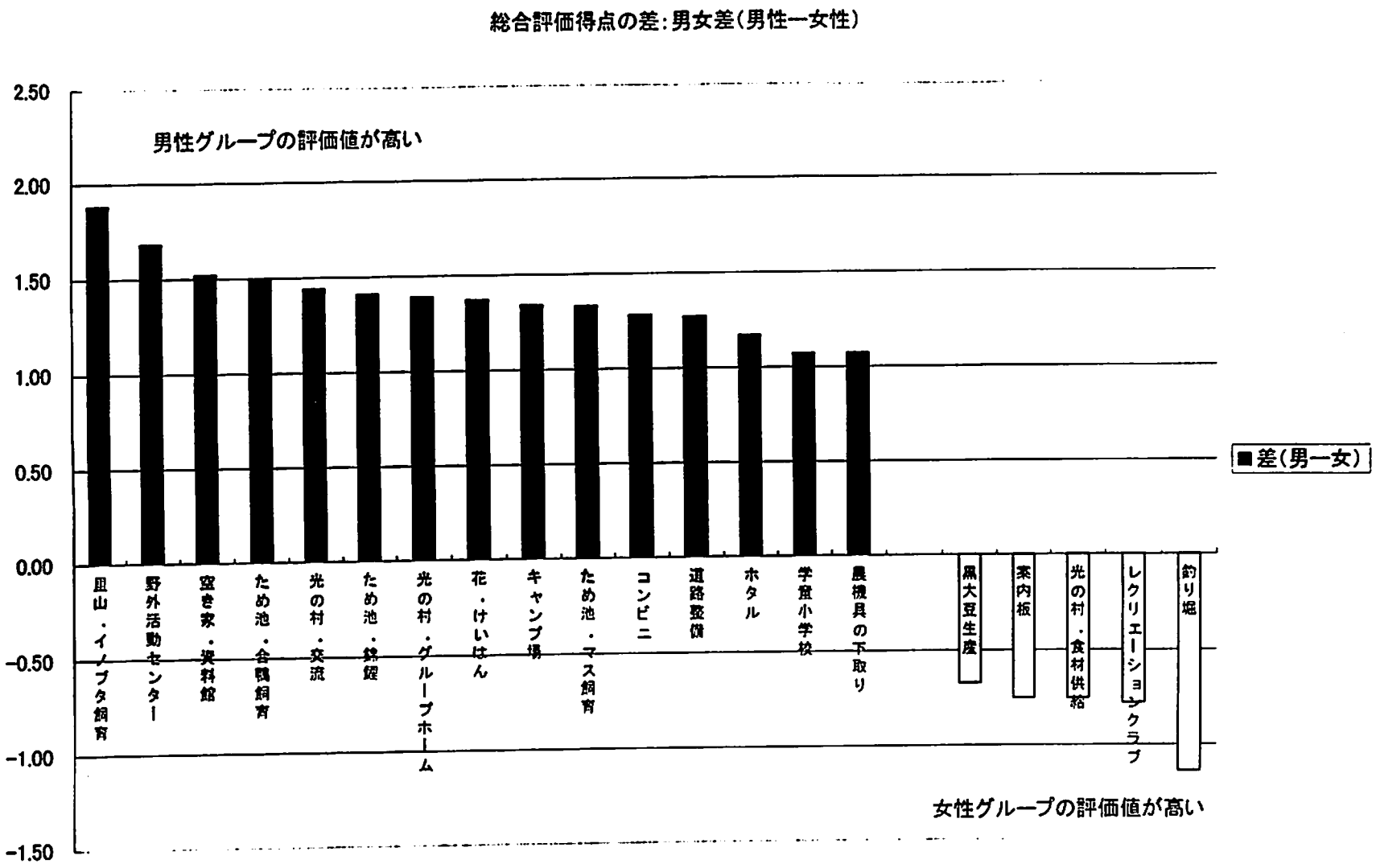


図2　男女別グループ間の評価結果の差

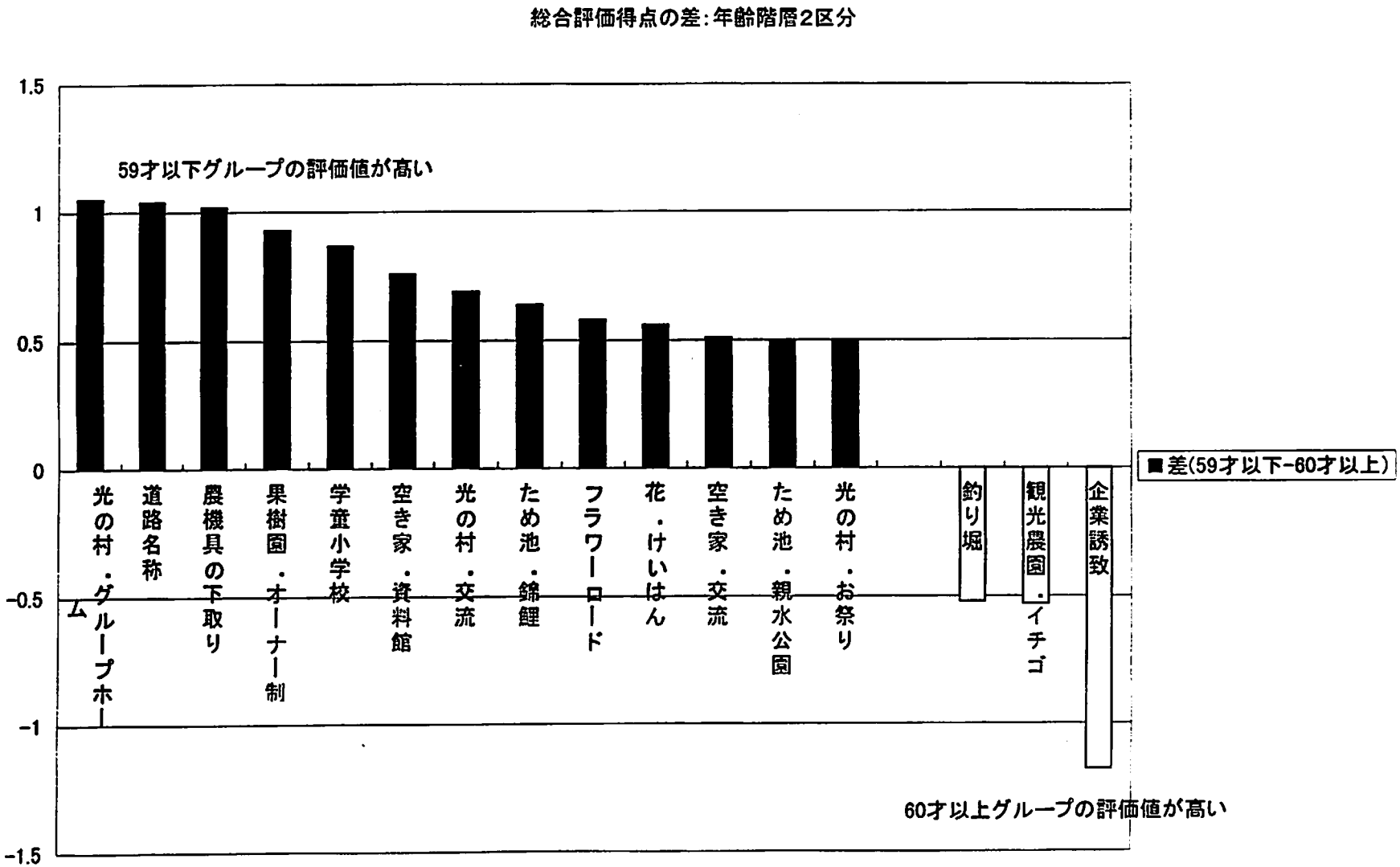


図3　年齢区分別グループ間の評価結果の差

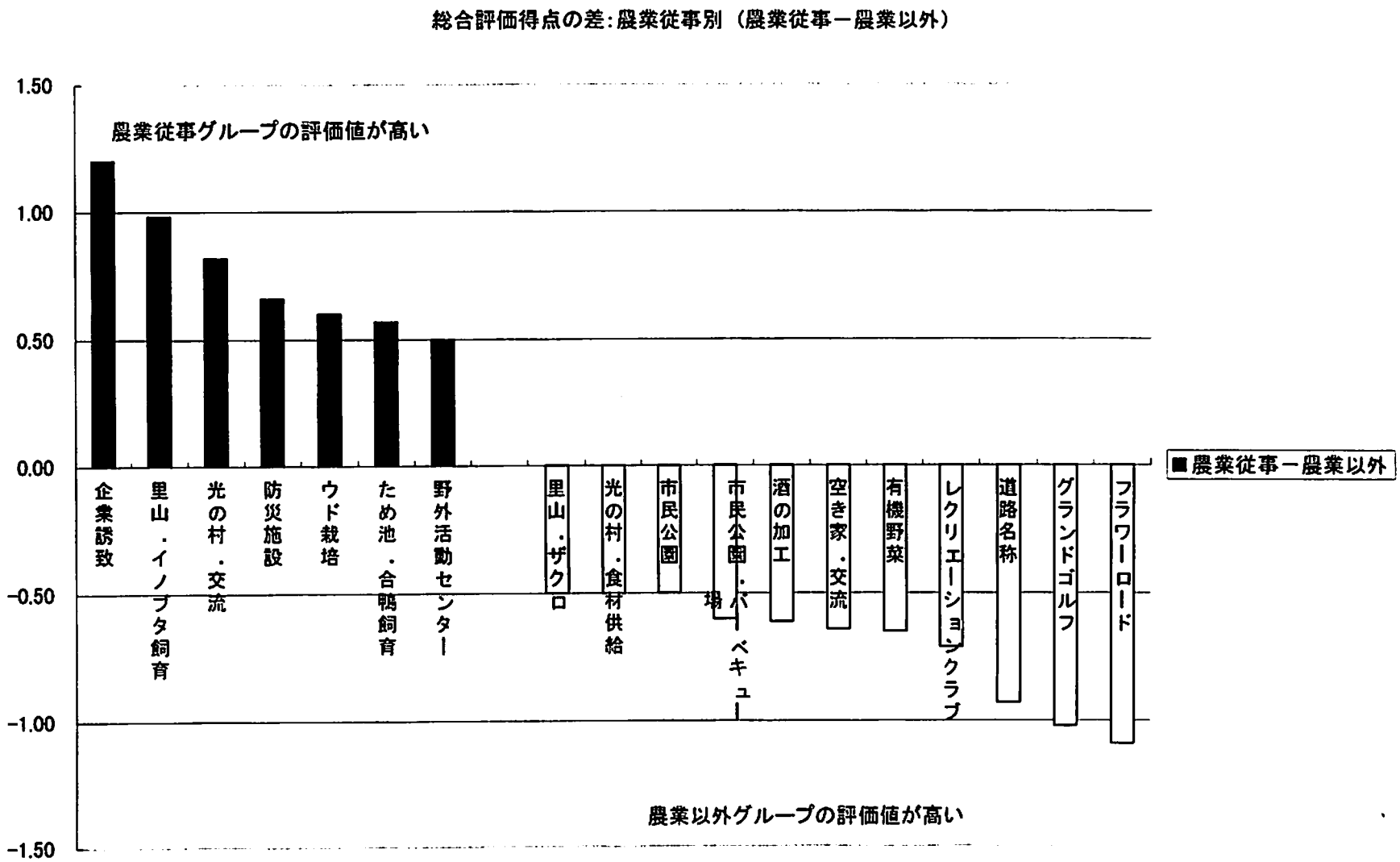


図４　農業従事別グループ間の評価結果の差

写真１　木津地区のシンボル，市民公園（お宮，右奥は集会所 1999.10.26）

写真２　木津地区の集会所施設（1999.10.26）

写真3　圃場整備が進行中の地区風景と茅葺き家屋（1999.10.26）

写真4　第2回座談会スナップ（アイデアの紹介と総括 1999.12.6）

写真5　第3回座談会のスナップ（重点項目の検討 2000.2.10）

写真6　第3回座談会のスナップ（重点項目の検討 2000.2.10）

2000年3月20日
岡大農　星野　敏

資料2　木津地区の生活慣習・行事に関する調査結果

2000年2月に実施した集落行事・生活慣習についての悉皆調査の結果を要約したものです。配布総数120票，回収103票で，回収率は約86%でした。

（1）集落行事・慣習に関する意向の結果

①ある程度、休日を自由に取れる方が多いが，自由にとれない人も2割いる。

休日のとり易さ（ＳＡ）

No.	カテゴリ	件数	%（全体）	%（除不）
1	ほとんど自由に	32	31.1	33.7
2	仕事や作業の段取りがつけば	44	42.7	46.3
3	自由に休みを取ることは難しい	19	18.4	20.0
	不明	8	7.8	
	サンプル数（%ベース）	103	100.0	95

②8割近くが親子の間で対話があると答えている。

親子の対話の頻度（ＳＡ）

No.	カテゴリ	件数	%（全体）	%（除不）
1	常に対話している	46	44.7	45.5
2	時々対話している	37	35.9	36.6
3	ほとんど対話していない	10	9.7	9.9
4	対話する相手がいない	8	7.8	7.9
	不明	2	1.9	
	サンプル数（%ベース）	103	100.0	101

③しかし6割近くの人が「世代間の意見交換があまり十分ではない」と感じている。

世代間の意思の疎通（ＳＡ）

No.	カテゴリ	件数	%（全体）	%（除不）
1	かなりとれていると思う	8	7.8	7.9
2	ある程度とれていると思う	24	23.3	23.8
3	あまりとれていないと思う	24	23.3	23.8
4	ほとんどとれていないと思う	35	34.0	34.7
5	わからない	10	9.7	9.9
	不明	2	1.9	
	サンプル数（%ベース）	103	100.0	101

④4割程度の方は、実はあまり集落内のお付き合いの作法を良く知らない。

集落内のお付き合いやしきたりを知っているか（ＳＡ）

No.	カテゴリ	件数	%（全体）	%（除不）
1	おおむね知っている	20	19.4	20.2
2	知らないこともあるが、大体把握し	37	35.9	37.4
3	あまりよく知らない	30	29.1	30.3
4	全く知らない	12	11.7	12.1
	不明	4	3.9	
	サンプル数（%ベース）	103	100.0	99

⑤多くの人（6割程度）が集落行事と個人的都合の競合を経験している。行事に参加していない人を除いた場合，その割合は8割を超えている。

個人の都合と集落行事が重複して困ったことがあるか（ＳＡ）

No.	カテゴリ	件数	%（全体）	%（除不）
1	ほとんどない	15	14.6	15.5
2	たまに経験する（年に数回）	47	45.6	48.5
3	しばしば経験する（2ヶ月に1回以上）	12	11.7	12.4
4	行事に参加してないのでわからない	23	22.3	23.7
	不明	6	5.8	
	サンプル数（%ベース）	103	100.0	97

⑥そのような競合に直面した場合，集落行事と個人的都合のどちらを優先するかについては，意向が分散している。「どちらとも言えない」が3分の1ともっ

とも多い。多くの人が判断に戸惑っていることがうかがえる。

個人の用件と集落の用件のどちらを優先するか（ＳＡ）

No.	カテゴリ	件数	%（全体）	%（除不）
1	おおむね集落の用件を優先	11	10.7	11.6
2	どちらかといえば集落の用件を優先	17	16.5	17.9
3	どちらともいえない	37	35.9	38.9
4	どちらかといえば個人の用件を優先	20	19.4	21.1
5	おおむね個人の用件を優先	10	9.7	10.5
	不明	8	7.8	
	サンプル数（%ベース）	103	100.0	95

⑦そして，集落行事や慣習に「わずらわしさ」を感じている人が 7 割に達している。

集落行事に煩わしいと感じることがあるか（ＳＡ）

No.	カテゴリ	件数	%（全体）	%（除不）
1	ほとんど感じない	8	7.8	8.2
2	たまに感じることがある	50	48.5	51.5
3	感じることが多い	25	24.3	25.8
4	近所付き合いや集落行事に関心ない	14	13.6	14.4
	不明	6	5.8	
	サンプル数（%ベース）	103	100.0	97

⑧しかしながら，集落行事からは，ある程度の満足感も得られている点に留意する必要がある。

集落の諸行事に対する総合的な評価（ＳＡ）

No.	カテゴリ	件数	%（全体）	%（除不）
1	非常に満足している	1	1.0	1.0
2	おおむね満足している	21	20.4	21.9
3	どちらともいえない	38	36.9	39.6
4	あまり満足していない	15	14.6	15.6
5	非常に満足していない	3	2.9	3.1
6	参加してないので、よくわからない	18	17.5	18.8
	不明	7	6.8	
	サンプル数（%ベース）	103	100.0	96

⑨行事を充実すべしとの意見もあるが、大勢(7割)は集落行事の見直し＝簡素化にある。

集落行事を今後どのように発展させたらよいか（ＳＡ）

No.	カテゴリ	件数	%（全体）	%（除不）
1	これまで以上に、充実させるべきだ	6	5.8	6.1
2	現状の程度でよい	20	19.4	20.4
3	できるだけ簡素化した方がよい	72	69.9	73.5
	不明	5	4.9	
	サンプル数（%ベース）	103	100.0	98

まとめ

以上，集落行事に対する意向の集計結果を示しました。集落行事に対して強い見直しの要望があることが明らかになっています。特に今回の調査をふまえて，改善できるところから検討を進めるべきであると思われます。

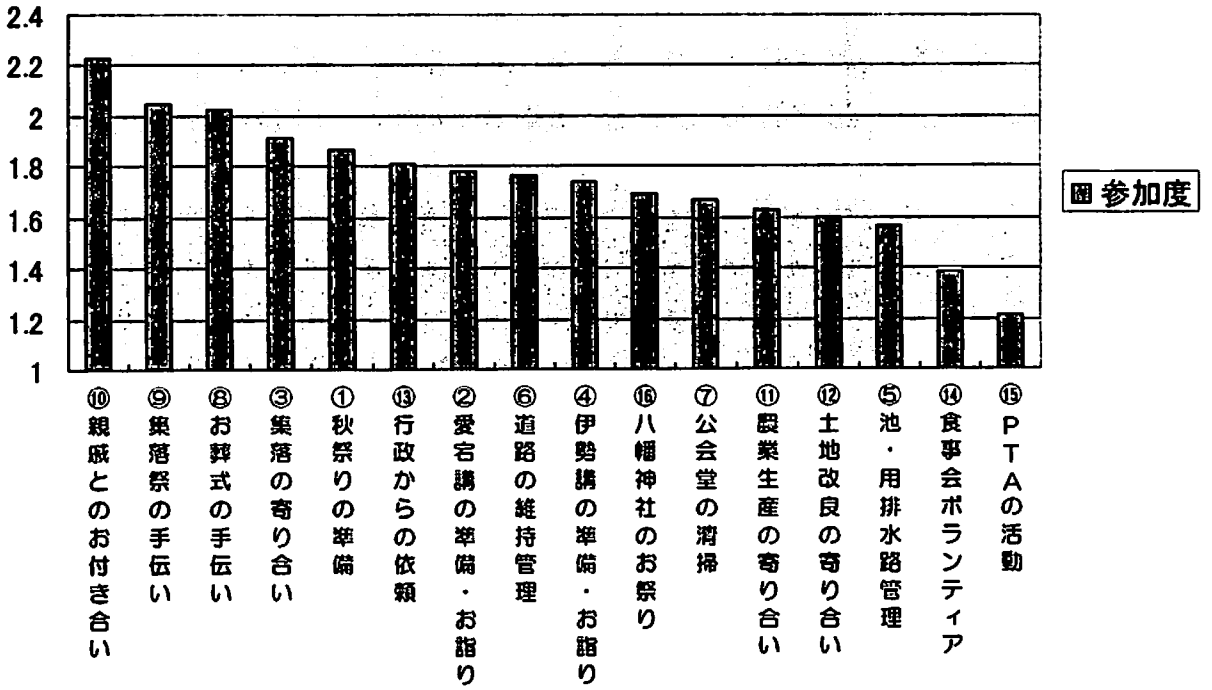
一方，集落行事や慣習はそれ自体が本集落を特徴づける重要な地域文化の一部です。したがって，集落行事や慣習をすべて簡素化・省略化するならば，これまで継承してきた地域の個性を失うことにもなりかねません。行事や慣習に込められた地域の個性＝「木津らしさ」を次世代に残してゆく努力もあわせて必要であるといえます。

（2）集落行事の評価

調査票では16の集落行事・慣習のそれぞれについて，参加度、満足度、見直しの質問の意向を質問しています。そこで，その回答結果を数値化して平均値を求めました。それを大きいものから並べて棒グラフを作成しました。

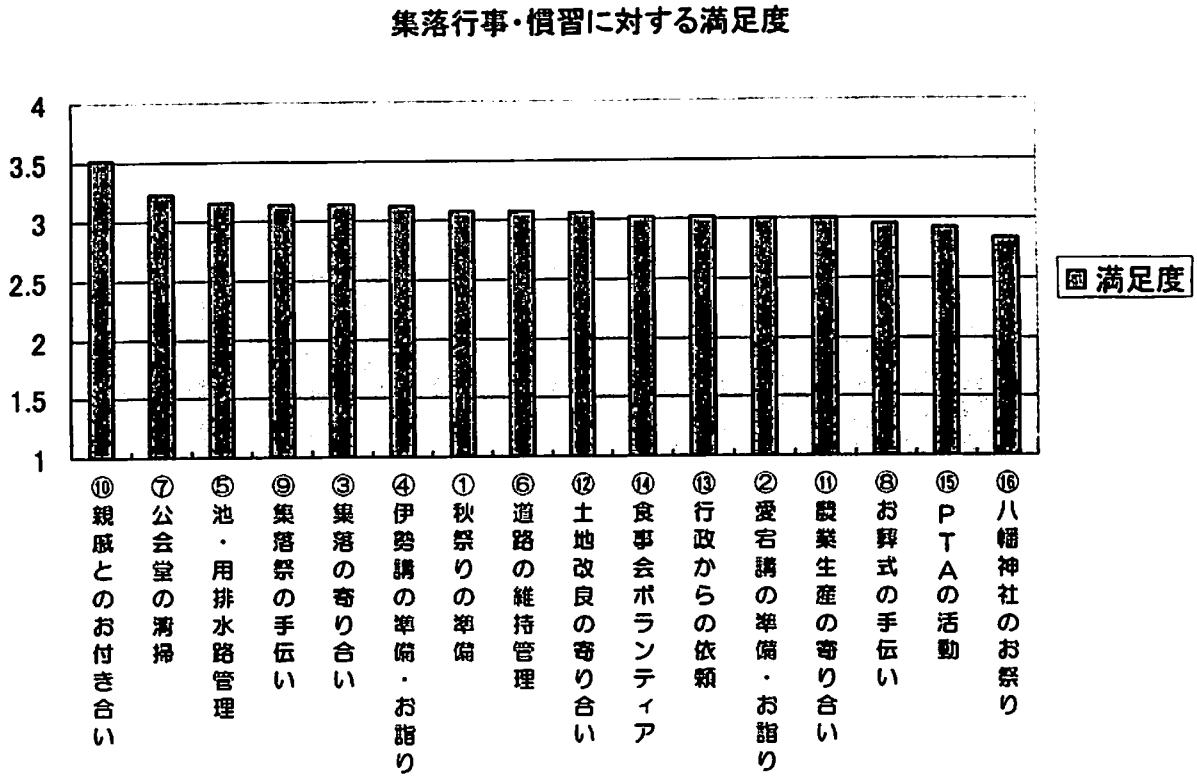
1) 集落行事・慣習への参加度

集落行事・慣習への参加度



参加度の高い行事・慣習は，上から順に親戚とのお付き合い，集落祭の手伝い，お葬式の手伝い，集落の寄り合い，秋祭りの準備でした。一方，参加度の低い行事は，下から順にPTAの活動，食事会ボランティア，池・用排水路管理，土地改良の寄り合いでした。

2) 集落行事に対する満足度



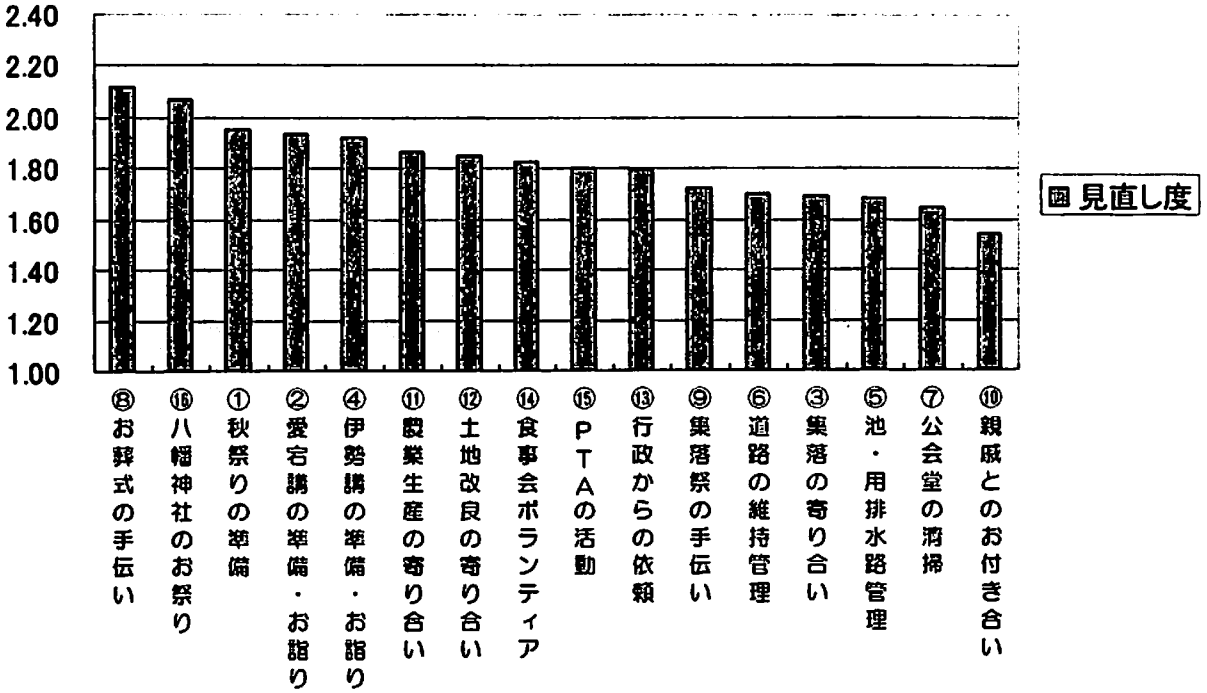
満足度の場合には，親戚とのお付き合いが最も高かったのですが，行事毎にあまり大きな差がみられませんでした。表1は3つの評価値の平均，標準偏差，変動係数（相対的なばらつきの大きさ）を示した表です。満足度の変動係数がもっとも小さくなっていました。実は，満足度を「どちらでもない」とする回答が極めて高かったことが，その理由です。これは，かなりの人が満足度の評価を保留ないし回避したことを意味しています。

表1　3つの評価の記述統計量

	参加度	満足度	見直し度
平均(M)	1.75	3.08	1.82
標準偏差(SD)	0.25	0.15	0.15
変動係数(CV=SD/M)	0.14	0.05	0.09

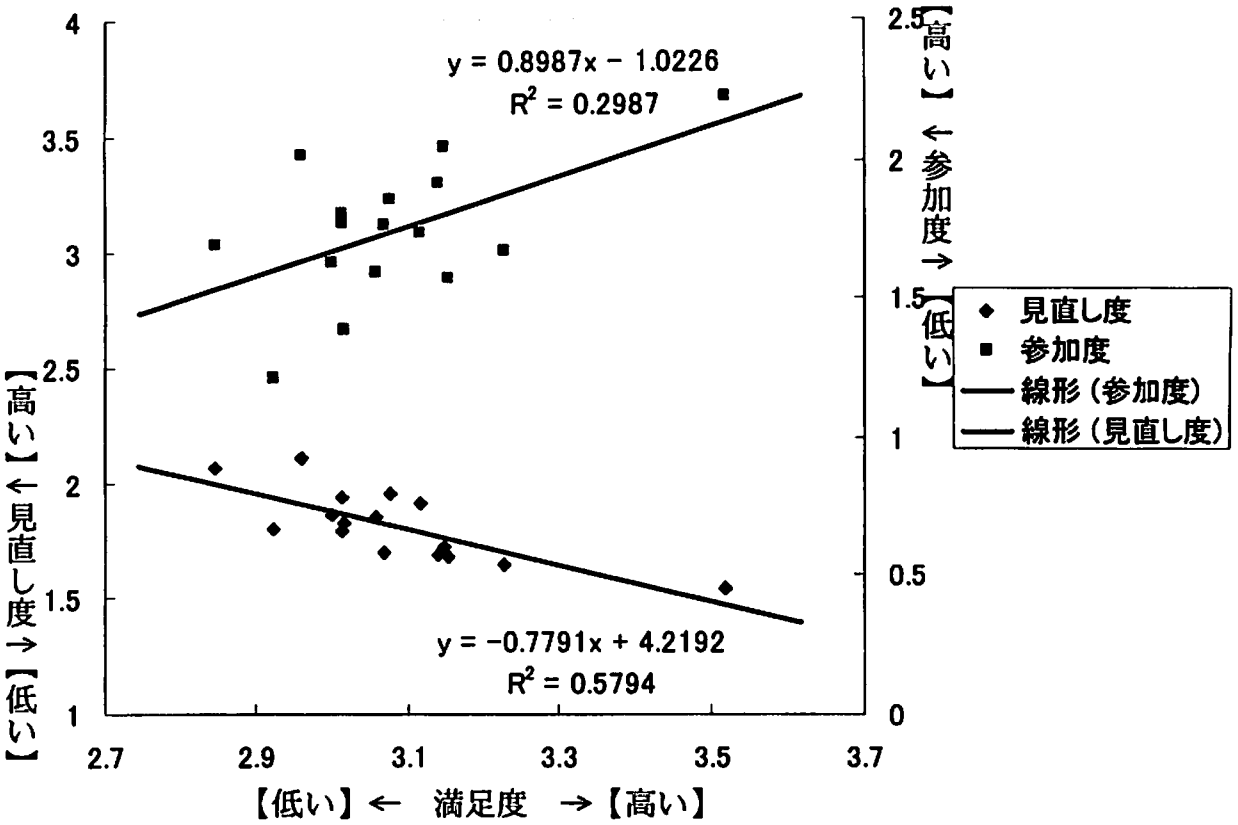
3) 集落行事に対する見直し意向

集落行事・慣習の見直し度



見直し度の評価の場合，点数が高いほど見直し要望が強い（＝改善の必要性が高い）ことを意味します。要望の強い項目は，上から順にお葬式の手伝い，八幡神社のお祭り，秋祭りの準備，愛宕講の準備・お詣り，伊勢講の準備・お詣りでした。

（3）参加度、満足度、見直し度の相互関係



16項目の行事･慣習に対する3つの評価値を散布図にしてみました。上図は，満足度が高くなるほど行事への参加度が増加し，逆に行事の見直し度は減少することを示しています。また，表2は相関行列を示したものです。このような関係を前提とすると，集落行事や慣習の見直しが，満足度の向上と参加者の増加をもたらすことが期待できるようです。

表2　3つの評価値の相関係数

	参加度	満足度	見直し度
参加度	1		
満足度	0.547	1	
見直し度	-0.111	-0.761	1

（4）自由回答意見の整理

自由回答欄を設けたところ、39 名，延べ 70 件の記入がありました。できるだけ原文を忠実に抜き出し、ＫＪ法を用いて整理してみました。なお、同意見は一つにまとめて，その数をカードに記入しています。また，複数の意見が記入されていたものは、内容に応じて分割しました。

①背景
生活様式の変化(特に非農業への就業の一般化)，個人生活の重視，集落との関わり合いの希薄化などの状況が進んでおり，現行の集落行事や慣習が，生活のパターンにそぐわなくなってきているようです。

②問題点
行事の負担の軽減(特に役員)と負担の平等化を求める声や，行事にかかる時間が長時間にわたり，「非効率」であるとする指摘もあります。また，行事の実施にあたって，若い層の意見が十分に反映されていないとする声もあります。

③見直しの方向
既にアンケートの集計でも示したように，行事の簡素化を求める要望は強い。特に，行事の実施日を日・祭日に変更する要望がきわめて強いです(18 件)。また，行事内容(お祭り)の内容の再検討を望む声や，参加人数の少ない行事をたくさんこなすのではなくて，少数の重点行事に集約すべしという意見，食事や酒席を少なくする意見もあります。個別の行事・慣習項目では，葬式の簡素化，ふれあい食事会の見直し，行政の支援についての要望があります。

④積極的な評価
他方，現行の集落行事や生活慣習を積極的に評価する声もあります。上の世代から引き継いだ行事・慣習という木津集落固有の生活文化を次世代につないでいくべきだとする意見です。集落行事に関しては，世代，性別，職業などの違いによって，個人の意見に大きな違いがあります。このことを踏まえて，慎重に議論を進める必要があります。

なお，自由回答欄に記載のあったものを選択することなく，全てカードにしています。したがって，必ずしも全体の意見をまとめたものではありません。

生活行事・慣習についての自由回答

作成日：2000.3.15
場　所：岡山大学農学部
情報源：意向調査(00年3月)の自由回答
作成者：星野　敏

個人の生活を優先

個人の生活を重視

- 時代に合うように改革する
- 集落行事を簡素化し、個々の家庭の生活を重視したものにする必要がある.

集落との関わりが薄い

- 学生で他地域に出ている.
- 住民票だけこちら.

集落行事・慣習の問題点

負担が大きい

- 行事の負担が大きすぎる.
- 婦人会への負担が大きすぎる.

だらだらした時間がもったいない

- 行事の無駄を省いて、効率化する.(2件)
- 時間を決めてほしい(時間無制限は困る)
- 寄り合いの時間厳守.

負担の均等化してほしい

- 出役を平等にする.
- 行事参加の出欠を取る.

若い世代の意見を反映してほしい

- 若い人の意見も取り入れる必要がある(5件)
- サラリーマンなので、時間的、金銭的な制約がある.
- 役員を定期的に交代させる.

現状はかなり意見の違いが見られる.

集落行事を積極的に評価

集落行事の有用性

- 集落行事はコミュニケーションを深めるための必要である.
- 冠婚葬祭の料理は伝統を伝える意味でも重要である.

集落行事は現状維持がいい

- 集落行事は現状維持.急激な変化は望ましくない.
- 冠婚葬祭は今までどおりがよい.

病気・寝たきりで参加できない

- 寝たきりなので集落行事に参加できない.
- 病気で寝たきり.

行事の具体的な見直し方向

強い簡素化の要望

- 行事を簡素化する.(8件)

行事の曜日変更

- 集落行事・お祭りの日を日祭日へ変更する.(18件)

行事内容の再考

- お祭りの店が毎年同じなのでつまらない
- 簡素で充実した中身の濃い行事にすべきである.

葬式の簡素化

- お葬式の簡素化を望む(4件)
- 葬式の手伝いの簡素化(日数・時間の短縮,食事の外部化を含む)(4件)
- 葬式は火葬に.

ふれあい食事会の見直し

- ふれあい食事会に参加する人の見直し.
- ふれあい食事会の役員の負担を減らす.

新しい集落社会計画の樹立

- 集落行事の現代版綱領の作成.
- 他の集落の事を参考にする.

食事・酒席の抑制

- お酒を飲む機会が多すぎる.
- 祭りの後の飲み食いをやめる.

市への要望

- 道路の管理を市に委託する.
- 愛宕講の費用を自治会が持つ.

（5）個々の行事の見直し方向

アンケート調査項目として設問した個別行事の改善案の集計結果は以下の通りです。地元での議論のたたき台として活用してください。

①集落行事の日程を現状のままでよいとする意見が1割程度であるのに対して，日曜・休日に変更してもらいたいと希望する方が6割を越えている。

集落行事の日程を変更する必要があるか（ＳＡ）

No.	カテゴリ	件数	%（全体）	%（除不）
1	現状のままでよい	12	11.7	12.4
2	決まった日付ではなく、曜日に変更	64	62.1	66.0
3	わからない	21	20.4	21.6
	不明	6	5.8	
	サンプル数（%ベース）	103	100.0	97

②「香料、祝儀の目安を決めた方がよい」とする意見は5割弱，「個人の自由に任せる」とする意見は3割であった。

冠婚葬祭のお金とそのお返しについて（ＳＡ）

No.	カテゴリ	件数	%（全体）	%（除不）
1	現状のままでよい（個人の自由）	30	29.1	30.6
2	ある程度の目安を申し合わせる	48	46.6	49.0
3	わからない	20	19.4	20.4
	不明	5	4.9	
	サンプル数（%ベース）	103	100.0	98

③葬式の手伝いに関しては、簡素化の要望が6割に達している。

お葬式のお手伝い（ＳＡ）

No.	カテゴリ	件数	%（全体）	%（除不）
1	現状のままでよい（個人の自由）	13	12.6	13.0
2	簡素化を進めた方がよい	62	60.2	62.0
3	わからない	25	24.3	25.0
	不明	3	2.9	
	サンプル数（%ベース）	103	100.0	100

④意向は分散しているが、「平等に出役する(出不足金あり)」の割合が最も高い。共同作業への出役のあり方は再検討する必要がある。

集落の共同作業の運営の仕方について（ＳＡ）

No.	カテゴリ	件数	%（全体）	%（除不）
1	平等に出役し、欠席者に罰金はなし	8	7.8	8.4
2	平等に出役し、欠席者には罰金あり	37	35.9	38.9
3	作業に出た人には、労賃を支払う	18	17.5	18.9
4	なるべく専門業者等に外注する	7	6.8	7.4
5	わからない	25	24.3	26.3
	不明	8	7.8	
	サンプル数（%ベース）	103	100.0	95

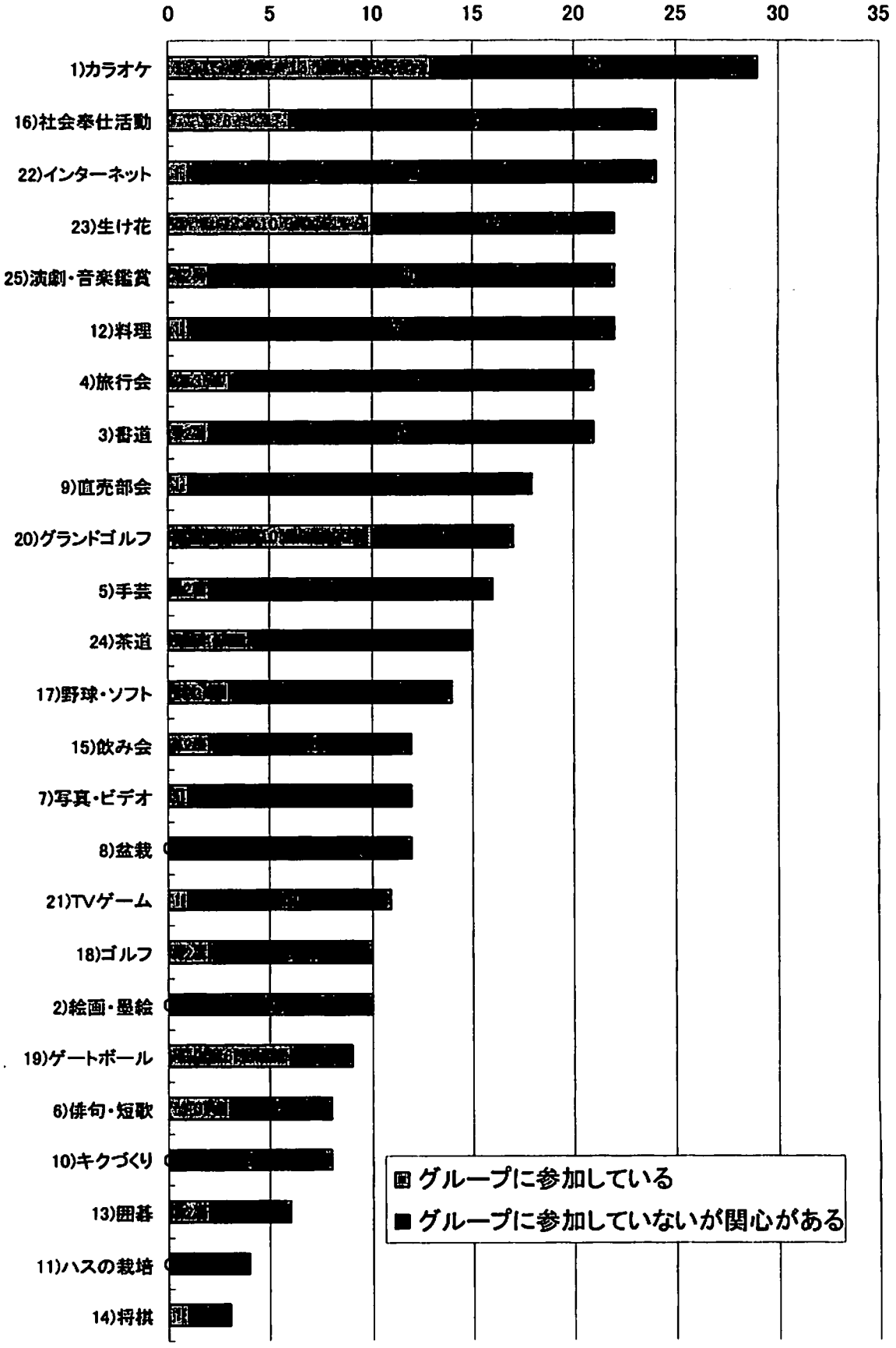
最後に，以上の結果をまとめたものが表3です。

表3　個別の改善案に対する結果の一覧

個別改善案	結果の概要
①集落行事の日程	日祭日への変更を希望する割合が6割。
②祝儀・香料の目安	設定を希望する割合が5割弱。個人の自由が3割。
③葬式の手伝い	簡素化を希望する割合が6割。
④共同出役のやり方	平等出役(出不足金有り)が4割弱。ただし，意向は分散している。

2000年3月20日
岡大農　星野　敏

（６）余暇活動に関する集計結果



グループに参加している人数が多い余暇活動は，上から順にカラオケ（13人），生け花（10人），グランドゴルフ（10人），社会奉仕活動（6人），ゲートボール（6人）でした。

一方，現在は参加していないが，関心がある余暇活動は，上から順にインターネット（23人），料理（21人），演劇・音楽鑑賞（20人），書道（19人），社会奉仕活動（18人），旅行会（18人），直売部会（17人），カラオケ（16人）でした。

このように，余暇活動についての新しいニーズ，あるいは潜在的なニーズはかなり大きいことがうかがえます。このような活動を新たに同好会として組織化したり，あるいは，集落行事や既存の地域組織の活動に取り入れたりして，その展開をはかる必要があります。このような新しい活動を押し進めるためには，それだけ時間を生み出す必要です。この意味でも，ある程度，既存の集落行事・生活慣習を簡素化・重点化することは，新しい活動を創出するためにも必要なことです。